

山にまつわる話 15

板橋 春夫

竜宮へ行った男の話

伊勢崎市宮子町には竜宮という地名があり、竜宮」という信号もあります。そして広瀬川に架かる橋は竜宮橋です。さらに興味深いのは竜宮の近くでは「浦風屋」という商店など、竜宮にちなんだ名前が付けられています。現在も竜宮伝説を伝える竜宮の森は竜宮橋のすぐ上流にあり、そこはうつろとした場所です。小さなお宮と藤の木があります。

半夏生(七月二日ごろ)になると、竜宮の淵から太鼓を打つ音が聞こえてくるといいます。これを「竜宮の農太鼓」と呼んでいました。この太鼓が聞こえてくると人々は田植えを始めたのです。また、何か縁起の良いことがあるときは、竜灯が上がるといわれてきました。



殿様が阿感坊のことを伝え聞き、どうしても竜宮のようすを聞きたいと言いました。しかし、阿感坊は話すと命がないと言われていたので殿様の頼みを断りました。それを聞いた殿様は怒り、話さないで殺してしまおう」と阿感坊を脅しました。人に話せば死んでしまおうというし、殿様に話さなければ殺されてしまおう。どちらにしても死んでしまおうのならば、ということとで竜宮での生活を殿様に話してしまつたのです。そして、話し終わると阿感坊は死んでしまいました。

この話は、口口相承竜宮本記」という江戸時代の記録にも書かれています。そして地元には、阿感坊が持ち帰ったとする玉手箱や観音像などを保存する家があり、現在も竜宮伝説が語り継がれています。また、竜宮には膳や椀などを貸してくれるという椀貸伝説が伝えられています。淵のところに膳棚と呼ばれる深い淵があり、そこは深い渦が巻いていました。その淵に人々が借りた膳や椀の数を書いた紙を投げ入れると、必要なだけの膳棚が下流に浮いたといわれています。

この竜宮には大昔、深い淵のそばに藤棚がありました。近くに住む阿感坊と呼ばれる男が藤の花を探ろうとして、誤って手斧を水底へ落としてしまいました。落ちた手斧が淵の中に見えたので、手を伸ばして取ろうとしたところ、阿感坊は水中に吸い込まれてしまいました。そして、行き着いた先は竜宮でした。そこに住むお姫様と楽しい毎日を送りましたが、竜宮の三日間は人間の世界では三年にあたります。いよいよ竜宮から元の世界へ帰るというときに、お姫様が玉手箱を渡しながら、竜宮で暮らした話を他人に話すと命がなくなります」と忠告をしました。

参考文献：伊勢崎市市民協編「伊勢崎市、1999年」
板橋春夫(いたはし・はるお)
1954年生まれ、群馬歴史民俗研究会代表。著書に「平成くらし歳時記」(岩田書院、2004年)、「暮らしの中の民俗学」(第一巻、共著、吉川弘文館、2003年)などがある。

ダム統管のつどい



これから本格的な台風シーズン！
大雨による洪水に備えて今...

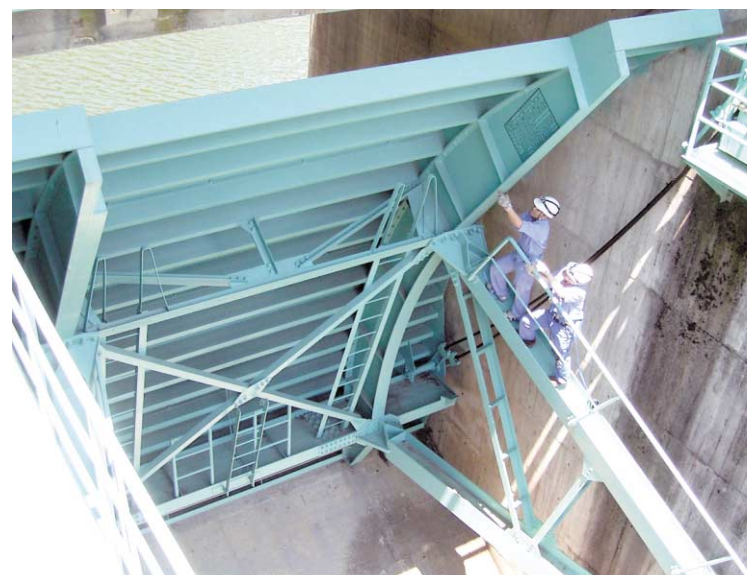
利根川ダム統合管理事務所、どんなしごとをしているのかな？ とくに、これから台風のシーズン。どんな備えをしているのか、しようかいしようね。
台風は大雨をふらせることが多い。大雨は洪水をもたらす。利根川の洪水の原因の90%以上は台風なんだ。

そこで、台風がやって来て大雨がふっても大きな洪水がおきないように、ダムはしっかりと準備をしている。それは「ダム」の貯水池の水位を下げて、たくさん水がためられるようにしておく」ということなんだ。

利根川上流の8つのダムを統合管理するダム統管の「管理課」では、台風に向けて各ダムの貯水池の水位をコントロールしている。そして、もしも大雨をとまなう台風が近づいてきたら、各ダムに指示を出すんだ。

予測される雨の量に応じて、どのダムにどのくらい水をためることができるか、そのためにはあらかじめどのくらい水を放流して貯水池をあけておけばよいか、といったことを計算して指示するわけだね。

ところで、放流のときはダムのゲートをあける。ゲートのほかに、ダムにはいろいろな機械がある。もしも故障したりして、指示どおりに動かなかつたら大変なことになるね。
そこで、ダム統管の「機械課」では、日ごろからダム(国土交通省管理の藤原ダム・相保ダム・園原ダム)の機械の点検をしているんだ。
とくに7月は、ダム貯水池の水位がいちばん下がりがり、いろいろな箇所を点検しやすいので、年に一度のこまかい点検をおこなっているんだよ。



園原ダムの非常用放流設備(クレストゲート)を点検しているところ

Q&A

どうしても知りたいこと、あるんだけど...教えてポトムくん!

Q 利根川の最初の一滴の水が太平洋に流れ出るまで、どれくらい時間がかかるの？

A 利根川の最初の一滴。それは群馬県と新潟県の境にある大水上山から始まる。頂上に近い「三角雪田」というところが利根川の水源なんだ。さて、その最初の一滴が太平洋に流れ出るまでに、どのくらい時間がかかるのか？ っーんなかなかむずかしい問題！ 川の流れるのは、上流と下流でちがう。上流から下流へいくにつれて流れはあそくなる。それから、川の水が多いたまは流れるはやくなり、少ないときはあそくなる。

そこで、いろいろな条件を考慮して計算すると、利根川の流れの平均で時速1.55キロメートルになるんだ。利根川の長さは約322キロメートルだから、時間にして約208時間、つまり9日間から10日間かかるということになるね。